

目 次

1. プログラム
2. 講演「新しい国家試験問題作成への挑戦
～問題作成で陥りやすい誤りや傾向～」 略
3. 演習の進め方
4. グループワーク用練習問題
5. 問題ワークシート 略
6. 資料1. 問題作成の手引き 略
7. 資料2. 問題作成マニュアル
8. 資料3. 問題作成のコツ
9. 資料4. 保健師教育の技術項目と卒業時の到達度
10. 資料5. 保健師国家試験出題基準改定案
11. 資料6. 保健師問題公募入力方法

全国保健師教育機関協議会スキルアップ研修会
プログラム

開催期日 平成 20 年 12 月 25 日 (木) 場所 タワーホール船堀 4 階 研修室

12:30~13:00 受付

13:00~13:30 開会挨拶 村嶋 幸代 会長

講演 「新しい保健師国家試験問題作成への挑戦！！
～問題作成で陥りやすい誤りや傾向～」

川本 利恵子先生 (九州大学 教授)

13:30~15:00 グループワーク

15:00~15:15 休憩

15:15~16:00 グループワーク発表

16:00~16:30 講評

川本 利恵子 先生 (九州大学教授)

後閑 容子 副会長

新しい保健師国家試験問題作成への挑戦！！
～問題作成で陥りやすい誤りや傾向～

九州大学医学部保健学科 川本 利恵子

問題作成で陥りやすい誤りや傾向

2008年12月25日(木)
九州大学大学院医学研究院
保健学部門看護学分野
川本利恵子

協力していただいた提出問題の中に 多くあった陥りやすい傾向

- 出題の意図が不明
- タキソノミーの偏り
- 選択(解答)肢のレベルや表現の問題
- 状況設定問題の状況(提供情報)を生かさな
い設問文

問題作成時に陥りやすい誤り(その1)

- 試験問題作成時、その問題によって何を
評価するかを考えることが重要である。
出題の意図は？

(例) 保健師助産師看護師国家試験は
看護基礎教育を履修した学生が、専門職業
人である保健師助産師看護師として必要な
知識・技術の評価することである。

保健師として必要な知識やスキル能 力を評価する出題であるべきとは

- 本当に保健師として必要な内容か
(出題基準はこれでいいのか)
- 看護師国家試験領域とオーバーラップしてい
る領域の確認(例:在宅看護・訪問看護)
- 保健師国家試験としての出題として適切か

問題作成時に陥りやすい誤り(その2)

＜タキソノミーの偏り＞

- ・ 評価目標の設定
評価理論と目標
- ・ 教育目標分類(タキソノミー)
課題中心方式と要素中心方式

↓
タキソノミーを考えての出題が重要

評価目標の設定が重要

- 評価基準としての評価目標
評価は、評価基準の設定が必要(学力評価の場合の評
価目標の設定は、その科目のカリキュラムの内容に対応
していなければならない):目標設定
- 教育の場合、目標は多元的に
- 教育と評価の目標を体系的にかつ具体的に水準を設定

↓
■ 教育目標分類(タキソノミー: taxonomy)
認知領域・精神運動領域・情意的領域

試験問題作成のためのタクソミー

教育目標分類(Taxonomy:タクソミー)

教育と評価の目標を体系的かつ具体的な水準を設定する理論的枠組み

教育活動で追求される目標を認知的領域、精神運動的領域、情意的領域の3つに分類し、各領域で体系的にしたもの

教育目標分類学

(Taxonomy:タクソミー)

教育目標分類学では、認知的領域、精神運動的領域、情意的領域の3領域が体系化される。

認知領域は知識・理解・応用・分析・総合・評価の順序で段階的に積み上げ

情意領域は受け入れ・反応・価値付け・組織化・個性化の順序で構成

精神運動領域は模倣・巧妙化・精密化・分節化・自然化の順序で構成

認知領域の教育目標分類学 (タクソミー)

- * ペーパー試験は教育目標学分類では認知領域の評価を行っている
- * 医療専門職の場合、認知領域に求められるのは、単なる知識ではなく、応用能力であるといえる
- * タクソミーⅠの問題が高得点でも、タクソミーⅡ・Ⅲで得点できるとは限らない。逆に、タクソミーⅡ・Ⅲで高得点の者はタクソミーⅠでも高得点を取る

認知領域の教育目標分類学 (タクソミー)

認知領域 (知識)

- ・想起 (Ⅰ型)、推定型 (Ⅰ'型)
- ・解釈 (Ⅱ型)
- ・問題解決 (Ⅲ型)

タクソミーから考える問題作成の可能性

- 想起型の問題が多い
- 問題解決型の問題はスキルアナリシスを問う問題としての可能性が高い

学力評価の方法

■ ペーパー試験

課題中心方式と要素中心方式

- 要素中心方式の代表的な試験が客観試験
<客観試験の留意点>

- ・本来の特質である行動要素の分析的性質を失うことがあってはならない
- ・安易に作問してはならない

客観試験の方法：課題中心方式と要素中心方式(池田央, 1981)

■課題中心方式：論述式試験

受験者に1個あるいは数個の中心課題と一定の時間を与え、試験時まで学習した知識をもとに最高と判断される解に向けて熟慮させ、それを解答させる方式

客観試験の方法：課題中心方式と要素中心方式(池田央, 1981)

■要素中心方式：客観試験

教育の最終目標を具体的な行動要素(目標)に分解し、その行動要素に対応した問題を1つ1つ作成し、要素をすべて網羅した試験問題を積み上げ、それにより全体の評価を行なう方式。行動要素の積み上げから試験が構成されているので要素中心方式

客観試験の基本原則

■細目分類表(試験設計表:blueprint)を作成する

■試験設計表をもとに試験課題を決め、偏りなく配分する



■出題数が増える

■1試験問題は1~2・3分

■択一形式ではプロセス評価はできない

テスト設計表 Blueprint

テストの問題を、学習内容と目標領域の両面から、偏りなく出題するための配分表

テストのための設計表-Blueprint(看護国家試験出題基準)

| 内容 | 設問 | 解説 | 問題解決 | 問題数 |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 看護基本技術 | ・身体アセスメント(バイタルサインに関する正常値)3題 ・記録報告(目的)1題 ・記録の整理 1題 ・感染コントロール(無菌操作、手洗) 2題 | ・事前防止(誤薬)1題 ・観察技術(精神面でのアセスメント)2題 ・事前防止(転倒、転落) 1題 ・安全を守るための技術(感染室の取扱い)2題 ・効果的で安楽な動きを作り出す技術(安楽な搬送)2題 | ・人間関係を確立構築させるための技術(カウンセリング技術)等例を用いて 3題 ・人間の成長を促すための技術(教育)1題 ・効果的で安楽な動きを作り出す技術(ホテイメカニクス)等例を示して 1題 | 20 |
| 基本的日常生活 | ... | ... | ... | 60 |
| 診療に伴う技術 | ... | ... | ... | 20 |
| 合計 | 30 | 35 | 35 | 100 |

多肢選択形式テスト問題の構成要素

武蔵野日赤短大 畑尾教授作成問題を一部改変

【問題】 顔面神経が麻痺した際に発音しにくい

のはどれか。2つ選べ

設問文

1. 「カ」 ← 誤答肢
2. 「シ」 ← 誤答肢
3. 「ベ」 ← 正解肢
4. 「ト」 ← 誤答肢
5. 「ピ」 ← 正解肢

← 選択肢

多肢選択形式テスト問題の構成要素

- 【問題】耳下腺腫瘍の摘出手術後に流涎が続いている。← 説明文
発音しにくいのはどれか。2つ選べ。← 設問文
- | | | | |
|--------|---|-----|-------|
| 1. 「カ」 | ← | 誤答肢 | ← 選択肢 |
| 2. 「シ」 | ← | 誤答肢 | |
| 3. 「ペ」 | ← | 正解肢 | |
| 4. 「ト」 | ← | 誤答肢 | |
| 5. 「ビ」 | ← | 正解肢 | |

問題作成時に陥りやすい誤り(その3)

一選択(解答)肢のレベルや表現の問題

- 選択肢の中にさまざまなレベル(肯定型・否定型など)がある
- 選択肢の中にたくさんのことを盛り込んでしまう
- 解説を付けた選択肢にしてしまう
- 設問文と符合しない選択肢がある

多肢選択形式(Multiple Choice: 以下MCQ)

<客観試験の基本形>

- 受験者には複数の選択肢が示され、正解を選び出す形式
- 選択肢直線上の極に片寄らず、その間にいろいろ違ったレベル段階の正解があり、その間の違いを識別する能力・判断力を問う

連続線上にある相対的な解答の識別

- 多肢選択形式(5肢択1)問題は5本の“○×形式”テストの選択肢を組み合わせたものではない
- ある1つの選択肢が直線上の正しい方の極に位置し、残りの4つの選択肢が誤りの極に位置してしまつては多肢選択法ではなく、単純真偽形式(○×形式)テストになってしまう。
- 単純真偽形式は、教科書からの文章を活用すると回答肢を作成しやすい。しかし、それは知識の想起レベルを判定する選択肢になりやすく、単なる機械的暗記を助長するおそれがある

多肢選択形式の意義

多肢選択形式(5肢択1)の質問は、選択肢の間にいろいろ違った段階の正しさの選択肢があって、その選択肢間の違いを識別する能力、判断力を問うことができる。

多肢選択形式問題作成時の原則

- 1つの問題で1つの中心的なテーマを設定する。
- 選択肢が直線上の極に集中しないようにする。
- 選択肢には二つの因子が入っていない。
- 選択肢はもつともらしいものである。
- 設問文と選択肢は文法的に一貫している。
- 解答コードは正解が偏らない。
- 適切な解答コードであることが必要である
- 出題された試験問題の解答結果を事後分析できる。

問題作成時に陥りやすい誤り(その4)
—状況設定問題の状況(提供情報)を生かさない設問文—

- 状況設定が設題に生かされていない
- 状況のステップを追った設題になっていない(判断能力・分析能力を問えない)
- 思考の途中のステップを追うことのできない択一形式を用いる場合には、プロセス評価はできない。思考のステップを評価する場合は、ステップごとに設題を行なう

想起型(Ⅰ型)

〔問題〕 顔面神経のはたらきはどれか。

1. 顔面の表情
2. 顔面の知覚
3. 下顎の運動
4. 上顎の運動
4. 舌の運動

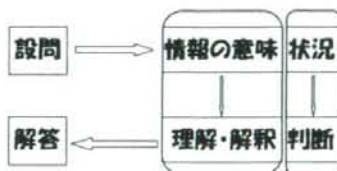
推定型(Ⅰ'型)

〔問題〕 顔面神経が麻痺した時に生じるのはどれか。

1. 吃逆
2. 誤嚥
3. 嘔声
4. 流涎
5. 流涙

解釈型(Ⅱ型)

- 設問文で示された情報の意味を理解・解釈、状況を判断して、解答する。



解釈型(Ⅱ型)

〔問題〕 耳下腺腫瘍の全摘出手術後に流涎が続いている。
発音しにくいのはどれか。

1. 「カ」
2. 「シ」
3. 「ベ」
4. 「ト」
5. 「サ」

問題解決型(型)

〔問題〕 耳下腺腫瘍の全摘出手術後に患側の閉眼が困難になった。会話時に聞き取れない単語はどれか。

1. 「カシ」
2. 「シゴト」
3. 「ペン」
4. 「トイレ」
5. 「サムイ」

状況設定問題を作成する際の留意点

- 1状況について複数(通常2~3)の問題が設定される。
- 各問題は、その状況の中で独立した設問でなければならない。
- 前問を正解しないと次の問題の解答ができないのではいけない。

陥りやすい傾向の問題例

- 当日に紹介予定



演 習

演習の進め方

【時間配分目安】

1. 各グループで司会・書記・発表者を決める。検討内容はフラッシュメモリのフォーマットに入力する。

2. ワークシートに示された練習問題について、以下の点を検討する。
 - 1) 各自で全ての問題を解き、正解肢の番号とその根拠、出題の意図、出題方式を考える。また、表「問題作成の視点」を参考に不適切と思われる点をピックアップする 【30分】

 - 2) グループで問題ごとに正解肢の番号とその根拠、出題の意図、出題方式を確認し、問題の不適切と思われる点を話し合う 【30分】

 - 3) 2)で示した不適切な点について、どうしたら良質な問題になるか代替案を考える 【30分】

3. 留意事項
ワーク後の解説をより理解しやすくするために、全ての問題に一通り目を通す

<グループワーク用 練習問題>

以下の問題について、出題のねらいを踏まえて問題をブラッシュアップしてみましょう！

【練習問題の出題のねらい】

保健師の国家試験として、保健師の知識を問う問題作成。つまり、保健師として卒業時の到達すべき水準に達しているかを問う問題の作成。

問1 介護保険について正しいのはどれか。

1. 有料老人ホームは、介護保険施設の一つである。
2. 入院の必要がある場合、要支援者2は介護療養型医療施設を利用できる。
3. ケアプランに含まれないものは、介護保険から給付を受けられない。
4. ケアプランは必要がなければ作成しなくてもよい。

【練習問題の出題のねらい】

単なる知識を問う問題から理解して知識を応用したり、複数のデータや状況を分析し全体にまとめあげる能力を問い、問題および解答肢のタクソノミーレベルをそろえる問題の作成。

問2 結核対策について誤っているのはどれか。

1. 一般住民の健康診断は市町村によって行われる。
2. 患者の届出は結核予防法により行われる。
3. 患者の登録は保健所が行う。
4. BCGを予防接種として用いる。

【練習問題の出題のねらい】

95回保健師国家試験から導入される出題形式（五肢択二）に適した問題の作成。

問3 働きながら安心して妊娠・出産を迎えるために、男女雇用機会均等法関係、労働基準法関係など支援する制度があります。以下の項の中から、労働基準法に準拠するものを2つ選びなさい。

1. 勤務時間中でも検診を受けに行けます。
2. 残業や深夜業、休日出勤がありません。
3. 朝夕時差出勤をしています。
4. 休憩時間を長くしてもらいました。
5. 育児時間を1日2回、各30分間、取っています。

【練習問題の出題のねらい】

保健師助産師看護師国家試験公算問題作成マニュアルにそい、保健師国家試験としての状況作成問題の作成

次の文を読み、【問4】【問5】【問6】に答えよ。

80歳女性、独身。年金生活である。介護保険によるサービスを申請しようとしている。高血圧症のため病院に通院中である。降圧治療薬を内服している。頭痛などの症状はないが、時々尿失禁があるのが気になる。

老人クラブに通っていたが、最近他界する仲間が多いため行っていない。家に一人であることが多く、気分的に落ち込んだ状態が続いている。元気を出すため、近所の薬局で紹介された漢方薬とビタミン剤を飲んでいる。隣町に息子夫婦がいるが、ここ数年は音信不通である。

問4 誤っているものはどれか。

1. 事例は、介護保険制度における第1号被保険者である。
2. 第1号被保険者の保険料の徴収は、所得段階別定額保険料で設定されている。
3. 保険料の設定に当たっては、2年の中期的な見直しに基づき行われる。
4. 介護給付に必要な費用は、サービス利用時の利用者負担を除いて、50%が公費でまかなわれている。

問5 介護サービス計画について適切なものはどれか。

- a. 事例は、居宅介護保険事業者に依頼して、居宅サービス計画（ケアプラン）を作成できる。
- b. 要支援者と認定された場合、施設サービスは給付できない。
- c. 事例自らがサービスの利用計画を作成することはできない。
- d. 介護保険の給付は、居宅介護サービス費・施設介護サービス費共に、設けられた（施設サービスは施設毎）基準額の9割が支給される。

1. a, b 2. a, d 3. b, c 4. c, d

問6 この事例に対する支援で適切なものはどれか。

1. 尿失禁については、降圧治療薬によるものと考えられ、夕方から夜間にかけての水分摂取を控えることを伝えた。
2. 高血圧症であることや現在の精神状態から、この女性は痴呆症老人になるリスクが高いと考え、隣町の息子夫婦に同居の可能性について相談した。
3. 薬を重複して服用している場合には、市販されている漢方薬やビタミン剤などの併用についても主治医に相談するように説明する。
4. 介護保険認定が決定されたら、直ちにホームヘルパーの派遣について検討するように提案していく。

ワークシート（練習問題1）

〔一般問題〕

問題1 介護保険について正しいのはどれか。

1. 有料老人ホームは、介護保険施設の一つである。
2. 入院の必要がある場合、要支援者2は介護療養型医療施設を利用できる。
3. ケアプランに含まれないものは、介護保険から給付を受けられない。
4. ケアプランは必要がなければ作成しなくてもよい。

1. 正解番号

2. 出題の意図

- 1) 保健師国家試験出題基準：
- 2) 保健師教育の技術項目の卒業時の到達度：

3. 1) 出題形式：

- 2) 評価領域によるテスト問題の分類（タキノミー）：

4. 問題の不適切な点

5. 修正問題

ワークシート（練習問題 2）

問題 2 結核対策について誤っているのはどれか。

1. 一般住民の健康診断は市町村によって行われる。
2. 患者の届出は結核予防法により行われる。
3. 患者の登録は保健所が行う。
4. BCG を予防接種として用いる。

1. 正解番号

2. 出題の意図

- 1) 保健師国家試験出題基準：
- 2) 保健師教育の技術項目の卒業時の到達度：

3. 1) 出題形式：

- 2) 評価領域によるテスト問題の分類（タキソノミー）：

4. 問題の不適切な点

5. 修正問題

ワークシート（練習問題3）

問題3 働きながら安心して妊娠・出産を迎えるために、男女雇用機会均等法関係、労働基準法関係など支援する制度があります。以下の項の中から、労働基準法に準拠するものを2つ選びなさい。

1. 勤務時間中でも検診を受けに行けます。
2. 残業や深夜業、休日出勤がありません。
3. 朝夕時差出勤をしています。
4. 休憩時間を長くしてもらいました。
5. 育児時間を1日2回、各30分間、取っています。

1. 正解番号

2. 出題の意図

- 1) 保健師国家試験出題基準：
- 2) 保健師教育の技術項目の卒業時の到達度：

3. 1) 出題形式：

- 2) 評価領域によるテスト問題の分類（タキノノミー）：

4. 問題の不適切な点

5. 修正問題

ワークシート（練習問題4. 5. 6）

次の文を読み、【問4】【問5】【問6】に答えよ。

80歳女性、独身。年金生活である。介護保険によるサービスを申請しようとしている。高血圧症のため病院に通院中である。降圧治療薬を内服している。頭痛などの症状はないが、時々尿失禁があるのが気になる。

老人クラブに通っていたが、最近他界する仲間が多いため行っていない。家に一人であることが多く、気分的に落ち込んだ状態が続いている。元気を出すため、近所の薬局で紹介された漢方薬とビタミン剤を飲んでいる。隣町に息子夫婦がいるが、ここ数年は音信不通である。

問4 あやまっているものはどれか。

1. 事例は、介護保険制度における第1号被保険者である。
2. 第1号被保険者の保険料の徴収は、所得段階別定額保険料で設定されている。
3. 保険料の設定に当たっては、2年の中期的な見直しに基づき行われる。
4. 介護給付に必要な費用は、サービス利用時の利用者負担を除いて、50%が公費でまかなわれている。

問5 介護サービス計画について適切なものはどれか。

- a. 事例は、居宅介護保険事業者に依頼して、居宅サービス計画（ケアプラン）を作成できる。
- b. 要支援者と認定された場合、施設サービスは給付できない。
- c. 事例自らがサービスの利用計画を作成することはできない。
- d. 介護保険の給付は、居宅介護サービス費・施設介護サービス費共に、設けられた（施設サービスは施設毎）基準額の9割が支給される。

1. a, b 2. a, d 3. b, c 4. c, d

問6 この事例に対する支援で適切なものはどれか。

1. 尿失禁については、降圧治療薬によるものと考えられ、夕方から夜間にかけての水分摂取を控えることを伝えた。
2. 高血圧症であることや現在の精神状態から、この女性は痴呆症老人になるリスクが高いと考え、隣町の息子夫婦に同居の可能性について相談した。
3. 薬を重複して服用している場合には、市販されている漢方薬やビタミン剤などの併用についても主治医に相談するように説明する。
4. 介護保険認定が決定されたら、直ちにホームヘルパーの派遣について検討するように提案していく。

1. 正解番号

[問題4]

[問題5]

[問題6]

2. 出題の意図

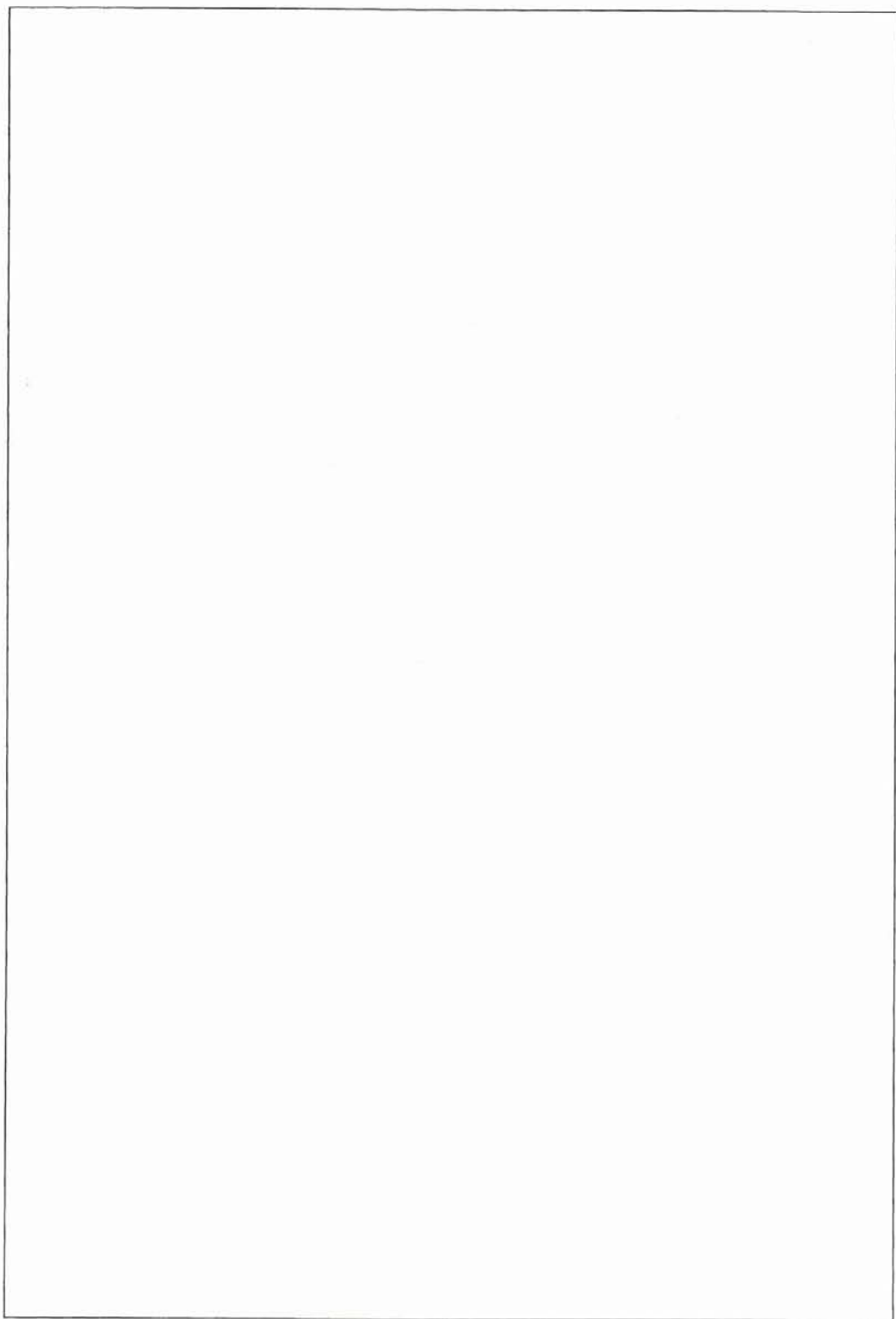
- 1) 保健師国家試験出題基準：
- 2) 保健師教育の技術項目の卒業時の到達度：

3. 1) 出題形式：

- 2) 評価領域によるテスト問題の分類（タキソノミー）：

4. 問題の不適切な点

5. 修正問題



資 料